

2013年度第5回執行理事会議事録

期 日：2013年10月12日（土）13:00～16:20

場 所：地質学会事務所

出席者：石渡会長 ウォリス副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 伊藤（14時半退出） 井龍 坂口 内藤 中澤 松田 山路 山本（事務局） 橋 辺

欠席者（委任状提出，未記入議場委任）：高木 平田 星 保柳 山口 西（欠席）

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者12名，委任状5名，欠席1 合計18名の出席。

*前回議事録の確認

I 審議事項

1. 地球全史スーパー年表の刊行について（齋藤理事）
岩波書店から日本地質学会監修で解説書とポスターのセットという形で出版が提案され，了承された。著者：清川昌一・伊藤孝・池原 実・尾上哲治 企画出版委員会が監修を担当する。
2. 野外調査上の注意喚起に関して（山路理事）
ニュース誌やHPを通じて野外調査におけるマナー向上を図る。2008年作成の「野外調査において心がけたいこと」をHPのわかりやすいところに置き，地質学雑誌に注意喚起文を掲載する。セーフティノートも準備する。
3. 投稿規定「数式の書き方に関する細則」の転用について（井龍理事）
日本地球惑星科学連合より地質学雑誌の投稿規定「数式の書き方に関する細則」を転用許可が申し込まれた。日本地質学会からの転用であることを記すことで了承した。
4. 論文賞について運営規則と各賞選考規則の文言の齟齬に問い合わせ
永広理事（選考委員長）からの問い合わせにたいし，とくに修正の必要はないということで永広理事に詳細説明を行うこととした。
5. 「鉱物資源部会」の設立に関して
新たな専門部会「鉱物資源部会」（代表加藤泰広 会員）の設立が提案され，趣意書と規則案が提出された。趣意書と規則の文言修正のうえ，12月の理事会に提案する。
6. その他
 - ・2015年松本大会の日程検討：LOCより9月11日（金）～13日（日）の意向が打診された。例年通り敬老の日前後での開催を相談することとした。
 - ・支部や専門部会が 他団体と共同で事業を行う場合（共催や後援など）は，事後の事業報告のみが規定されている。共同事業が決まり次第本部に連絡するよう依頼する。
 - ・2016年の総会日程については9月の理事会で執行

理事会に決定が委ねられ，検討の結果，5月24日（土）に開催することとした。フォトコンテストの表彰式も同日開催する。

・GSA海外大会と巡検を日本地球惑星科学連合と共催で2015年5月大会に検討することを了承した（石渡会長）

II 報告事項

(1) 全体的報告

1. 原子力規制庁より有識者会合の委員の情報開示について確認があり，当会としては年齢，メールアドレス，電話については非開示の意思表示をしたが，同庁として，これらの情報はすでにHP等で公表されている内容につき，非開示にはあたらないという返答があった。
2. 文科省科学技術・学術審議会測地学分科会より「災害軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について（中間まとめ）」の意見照会があった件については，専門部会等からの意見聴取も入れて，学会として意見を提出した。
3. 9月16日に開催された原子力規制委員会評価会合についての意見交換会議事録をHP会員のページに掲載した。議事録はニュース誌にも掲載される。
4. 第2回地球惑星科学連合の環境・災害対応委員会に，地質学会委員の小荒井，川畑両会員が出席した（齋藤常務理事）。日本地質学会の対応状況を紹介した。

(2) 運営財政部会：総務委員会（西・山本）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 日本ジオパーク隠岐大会実行委員会より，同大会（10/15-18）の後援依頼があり承諾した。
2. NPO法人日本地質汚染審査機構より，環境地質部会に対し，第24回地質汚染調査浄化技術研修会（11/22-24）の共催申し入れがあり，本部も確認し，部会は共催を承諾した。
3. 尾瀬財団より尾瀬賞の募集に関し，再度募集期間延長（10/31）のお知らせと周知方の依頼があり，ジオフラッシュに掲載。
4. 山田科学振興財団より2014年度研究援助候補者の推薦依頼（援助対象2014/9-2016/03までの研究）：地質学会からは3件まで推薦可（募集期間10/1-2/28，学会メット1/31）→HP，geo-flash，News誌に掲載
5. 新潟大学企画展示「微化石展」（後援）実施報告，期間中の来場者719名

<その他>

1. 公財）未来工学研究所より，学協会における科学技術研究（分野，テーマ）の多様性確保についてのアンケートに回答

<会員>

1. 今月の入会者 (9名)
正会員 (10名): 坂東雄一, 菊地 真, 鈴木勝彦, 原口 悟, 藤永公一郎, 中村謙太郎, 高谷雄太郎, 宮本英昭, 高井 研 高橋嘉男
2. 今月の退会者 (2名)
正会員 (2名): 荒巻美紀, 高松 総
3. 今月の逝去者 (3名)
名誉会員 (1名): 奈須紀幸 (10月3日)
正会員 (2名): 関戸信次 (9月5日) 的場保望 (9月18日)
4. 2013年9月末日会員数
賛助: 26 名誉: 68 正会員: 3897 (正会員: 3687, 正 (院割) 会員: 194, 正 (学部割) 会員: 16 合計 3991 (昨年比-90)

<会計>

- ・大韓地質学会への手土産その他経費についての検討.
- ・科研費の事業報告 (収支報告) を完了し提出する.
- ・仙台大会の収支概算は, 概ねバランスはとれている模様との報告がされた

(3) 広報部会: 広報委員会 (内藤・松田)

- ・ジオルジュ2013年後期号の編集中
- ・日本地質学会ロゴの利用ルールの明確化を検討する.

(4) 学術研究部会: 行事委員会 (星)

- ・行事関係報告:

仙台大会: 635件発表, 983人参加. 巡検12コース302人参加.

鹿児島大会:

- ・産総研地質調査総合センターより, 情報展は従来通り年会と同時開催と返答があった.
- ・巡検8コースが選定され案内書の準備進行中
- ・津波堆積物の国際シンポジウムと巡検は鹿児島大会と同時開催する.

なお, この巡検案内書も年会巡検案内書に掲載する方向で行事委員会に検討要請する.

(5) 学術研究部会: 国際交流委員会 (井龍)

- ・ロンドン地質学会との学術交流協定をニュース誌に報告する.
- ・モンゴル地質学会との学術交流協定は, 来年更新の予定で準備中.

(6) 編集出版部会: 地質学雑誌編集委員会 (山路)

- 1) 編集状況報告 (10月10日現在) が報告された. 新たな特集号提案もあった.
 - ・2013年度投稿論文 総数67編 [論説32 (和文31 英文1)・総説7 (和文7)・報告5 (和文5)・ノート1 (和文1)・討論2・口絵8 (和文7, 英文1)・巡検案内書12]・査読中29編 受理済み6編
 - ・118巻10月号: 論説3, 報告1, 口絵1 (計約60頁 校正中)

- 2) 特集号「ジュラ系+」の10年 (世話人: 松岡 篤, 近藤康生, 小松俊文, 石田直人, 中田健太郎) 9/26 受付, 査読開始

(7) 編集出版部会: Island Arc編集委員会 (伊藤)

- ・編集状況ほか報告 2012年より掲載ページ数が増加した.

(8) 編集出版部会: 企画出版委員会 (山口・保柳)

- ・富士山・青木ヶ原たんけんマップは著者からの修正が戻り再校閲中
- ・朝倉書店の編集者より口頭で, 地方地質誌の四国と東北について, それぞれ1~2件の未提出原稿があるが, 来年の年会までには刊行できる見込みとの報告があった.

(9) 社会貢献部会 (高木・平田・中澤・保柳)

- ・地質の日事業推進委員会の地質学会推薦委員として中澤理事が副委員長として, また委員長として平田理事が継続することとなった.
- ・地質調査研修: 10月18日の週に開催予定である. 参加希望者が少ない.

(10) ジオパーク支援委員会 (高木)

- ・9月24日のジオパーク委員会において, 今年度のJGN (日本ジオパークネットワーク) 申請が下記の通り認定され, 日本のジオパークは32地域 (GGN加盟6地域を含む) となった. また, GGN (世界ジオパークネットワーク) 加盟候補としては阿蘇ジオパークの推薦が決定した. 阿蘇ジオパークはパリのユネスコ本部に12月に申請書を提出し, 来年GGNからの視察を経て, 加盟の是非が決定される.
- ・JGN認定: 三笠, 三陸, 佐渡, 四国西予, おおいた姫島, おおいた豊後大野, 桜島・錦江湾
- ・GGN加盟候補として申請していたアポイ岳, 白山手取川, 霧島の各ジオパークは推薦見送り, JGN加盟候補として申請していた美祢, 本部半島は, 認定見送りとなり, とち鹿追は保留となった.

(11) 地学オリンピック支援委員会 (平田)

(12) 震災復興事業プラン検討WG (高木・西・藤本・斎藤)

- ・10月22日・23日に仙台国際センターで開催されるCCOPテクニカルセッションにおいて, 高木理事によって, 地質学会の震災復興支援事業の紹介が行われる.

(13) 地質技術者教育委員会 (山本)

- ・土質・地質技術者生涯学習協議会=CPDが10月9日開催 (臨時) され, 山本理事が出席. なお, 同協議会のMLへの登録を確認し, 今後は学会事務局のアドレスに登録することとした.
- ・協議会では, ジオ・スクーリングネットの建設系CPD協議会との関係が議論され, RCCM更新および国交省関東地方整備局における技術者評価などでのメリットが確認された.
- ・ジオ・スクーリングネットは学協会とのフィール

ト教育強化に関心がある.

- CPD学習に対する学会の貢献が必要.

以上

2013年11月13日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会 長 (代表理事) 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 眞